

# 西光寺だより

第二三三号 令和三年 九月一日発行

コロナ感染拡大はまだまだ続き、昨年に引き続き今年もまた我慢の夏になつてしまいました。制限がある状態が長く続くといつの間にか精神的に疲労していくものですが、元氣に見える子供たちもきつと同じであろうと思えます。大人も子供もうつぶんが溜まり国民全体が疲れてきていることを実感することでもあります。

「私の想像の翼は、閉じ込められても閉じ込められても、はばたき続けるの。」  
皆さまもご存じの『アンネの日記』の中に書かれている言葉です。

十三歳の時に家族とともに二年間の潜伏生活をしている中で書かれたこの日記には、生活の自由を奪われてもお輝き続ける少女の希望のことがばが溢れています。

どんな状態においても自分が想像する自由が奪われることはありません。今の私たちはアンネのように過酷な状態ではありませんが、教えてもらおうことがたくさんあるように感じます。

目の前のことですら、日一日と気温も涼しくなり、いつのまにか日も短くなっていることに気づけます。あの暑かった真夏の太陽に比べ、九月も半ばを過ぎると、やわらかい日差しを感じられます。秋の訪れといえますね。

兼好法師は『徒然草』のなかに「夏果てて秋のくるにはあらず」と示されました。今日までが夏で明日から秋というわけではありません。

いつのまにか夏が終わって秋になった、というのが四季の移り変わりのようでもあります。すでに、夏の間秋の準備ができています、秋の間に冬の間春の準備ができています、そんな自然の営みを感じることでもあります。

さて、紅葉たちは鮮やかに色づく準備をしているのでしょうか？そんなことを想像しながらゆったりと過ごしたいと思っております。

合掌



## ◆先月の報告◆

八月十五日（土）西光寺本堂にて盂蘭盆会法要を行いました。

仏説阿弥陀経のお勤めをしながら、さまざまないのちを思いながら尊い時間を過ごさせていただきました。

皆さんとこのようにして本堂に集まっていたいただき共に同じ時間を過ごす、今まではあたりまえに過ごしていたことを特別な思いで過ごす、何気に時間が過ぎてゆく流れの中で本当に味わい深い時間でありました。

またこの日は終戦七六年の年でもありました。

本願寺新報に載ってありました、大切なお言葉。

### 『人間は二度死ぬ』

意味するところ、

「一度目は、肉体が滅びたとき。」

二度目は、人に忘れさられ、記憶から消え去ったとき。」  
ということ。

原爆が落とされたヒロシマにおいて、原爆体験者がいなくなる近い未来について、直面する最大の課題は、この「ヒロシマの死者」の、二度目の死であります。

記憶から消え去ることのないように、「死者の記憶」を次世代に伝える

「記憶の博物館」として、広島平和記念資料館が存在し、そしてこれから私たちの心にしつかりと記憶に残る場所として伝えていきたいと、感じた記事でありました。

また「ヒロシマ」と書きあらわすのは、平和や原爆に関する記事において、普通の地名の広島と区別する意味で使っているようであります。

私たちはこの「ヒロシマ」の文字を目にするごとに、その言葉に表された重みと記憶を絶対に忘れてはいけなく感じることでもあります。

これからも普通の日々が送れることは、多くの方々のいのちのうえに今がある、特別な日々だと、感謝の思いで過ごしたいと思っております。皆さんようこそのお参りでありました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

## ◆九・十月の行事◆

・九月 〃 在家報恩講

・九月 十五日 (水)

大谷本廟墓参 (みのり講・穂積講の方)

午後二時

大谷本廟お茶所

※なお、墓参の際、念珠・経本・千円を宜しくお願い致します。  
行かれない方は千円を西光寺、又はお速夜参りの際によりしくお  
願い致します。自己判断のうえ、ご自由にご参加ください。

・九月 二十二日 (水)

仏教婦人会報恩講

午後一時〃午後一時三〇分 (正信偈)

西光寺本堂

※感染症予防のためお勤めのみとさせていただきます。

・九月 三〇日 (木)

秋季永代経法要

午後二時〃午後二時三〇分 (正信偈)

西光寺本堂

※感染症予防のためお勤めのみとさせていただきます。